

第 56 回市民ふれあいトーク 【学生が主役のまちづくり】

日時 平成 26 年 10 月 3 日 18 : 30 ~ 20 : 00

場所 くらしき作陽大学

要約版

市長

皆さんこんばんは。今日は学生と市長が語る会ということで、市民ふれあいトークを作陽学園さんのご厚意でこの学校内で開催させていただくことになりまして、大変ありがとうございます。作陽学園の学生さんたちと、それから中国職業能力開発大学の皆さんの参加をいただきました。そして今、素晴らしいウエルカム演奏をしていただきまして、本当にありがとうございます。倉敷館で昨日も演奏してくださったんですね。市民ふれあいトークが音楽で開催されたのは初めてだと思いますので、本当にありがたいことだと思っております。

この市民ふれあいトークというのは、私市長が各地域であるとか、各学校、それからテーマごとにこの会を設けて、広報紙でPRをして申込みをしてくださったり、若しくはこのようなテーマで学生さんと一緒に意見交換をするという会です。大体1か月に1回、何十人かの市民の皆さんとお話をしまして、皆さんが今考えていること、関心があること、今後の倉敷市についてどう思っているのかということをお伺いして、倉敷市政の参考にさせていただき、市政に反映していきたいというのが目的でございます。

今回は学生の皆さんとこの玉島の地域で語り合おうということで、私も大変楽しみにして参りました。きっと今までの中で一番平均年齢が若い参加者の会ではないかと思っております。地域で会をいたしますと、当然地域のまちづくりの関係の皆さんとか、おじいちゃん、おばあちゃんとかの年代の方がたくさん参加をしてくださいます。皆さんがそれぞれ自分の観点で、倉敷市のことに関心を持っていただいて質問してくださったり、もっとこうの方がいいんじゃないかと意見を言うてくださったりということで、それぞれの会で特色があるんです。今日は皆さんが日頃思っていることを是非、質問、意見を言うていただければありがたいと思っております。

最初に、岡山県外の出身の方はどのくらいいらっしゃいますか。次に岡山県内で倉敷市外の方はどのくらいいらっしゃいますか。県外の方が半分ぐらい、市内が4分の1、県内で市外が4分の1ぐらいですね。皆さんそれぞれが学校を選んで、この倉敷市、玉島の地に来てくださったんじゃないかと思っております。最初に私の方から、今の倉敷市の状況、それから全国で何が有名かということをお話したいと思っております。

まず倉敷市は何が有名か、色々な有名なものがあります。倉敷地区では、伝統的建造物群保存地区という所があります。倉敷美観地区です。倉敷川が流れている両側とか町並みが江戸時代からの町並みを残していて、そこに多くの観光客の方が来られていますけれど、全国の中でこの白壁の町並み、景観を保護している町ということで、倉敷は大変有名な町になっています。京都とか、金沢、中国地方で言えば倉吉だったり、岡山県内でも高梁市とか、町家、吹屋保存地区とかありますけれど、倉敷は昔からの町並みを保存している。それは単純に保存しているだけでなく生活の場として使って、自分のお店として江戸時代からずっと商売をされているということで非常に有名な町です。

水島地区では水島コンビナートがありまして、全国の中で大変大きなコンビナートです。玉島地区は、作陽学園さんと能開大さんがあります。特に作陽学園さんが来ていただい

てからは音楽あふれるまち玉島ということで、地域の皆さんがとても嬉しく思っている、職業能力開発大学の皆さんは優秀な技術者として、水島のコンビナートに多く就職をされるなど、私たちの町にとってなくてはならない素晴らしい大学で、大切な地域です。そして音楽をはじめとして、倉敷市の中でこの玉島地区は農業の担い手の場所です。ちょっと近くに行ったら富田地区、桃の畑とかブドウがたくさんある所ですが、岡山県内でも大変有名な桃の産地で清水白桃とか岡山夢白桃とか皆さん聞いたことがあると思いますし、ピオーネのブドウ、隣に行きますと、船穂地区のマスカットオブアレキサンドリアという緑色のブドウがあります。これはブドウの女王と言われていまして、全国の中で温室栽培、ビニールハウスの中で作っているブドウの中では、倉敷市が全国の中で一番多いです。そして一番多いもの、大変すばらしいものはたくさんありまして、この玉島地区でも皆さん自転車だと遠くて行きにくいかもしれませんが、玉島の南の方に行きますと、玉島ハーバーアイランドという所があります。ちなみに玉島ハーバーアイランドを聞いたことがある人は手を挙げてみてください。割と少ないですね。この玉島地区の南側に岡山県が大きな人工島を造っています。ハーバーアイランドは港の船がたくさんついている所ではなくて、大きな工場とかができています。そこには例えば、日本で一番のナカシマプロペラさん、日本の船のプロペラの中ではシェアがナンバー1の所です。技術系の方とかは聞いたことがあるかもしれませんが、人工関節をチタンで作ってまして、その技術では日本でトップクラスの会社もあります。それから玉島ハーバーアイランドには、世界の中で最先端をいく飛行機の部品を造る日本エアロフォージという会社が出来ました。そこでは何を造っているかというところ、これもチタンをはじめとして大変強い部品で、飛行機の羽根の肩の絶対折れてはいけないような所の部品を造っています。この玉島ハーバーアイランドとフランスとロシアと、全世界でも何個しかない中で、一番最新鋭の工場があるのが玉島のハーバーアイランドの中にあります。確か、能開大さんからも何人が就職をされているんじゃないかと思いますが、すごい会社であります。それから水島コンビナートの中にある日本鋼管、川崎製鉄、JFEさんは日本の中で倉敷と福山の両方に工場があることを知っていると思いますけれども、それも全国の中でもJFE西日本の製鉄所はトップの製鉄の量を誇る会社だったりなど水島の中だけでも多くの日本一があり、玉島には世界でもトップクラスの企業もいらっしゃるということになります。

それから児島地区。皆さん玉島に住んでいらっしゃる方も結構多いと思いますが、児島は繊維産業が日本の中でも有名な所です。皆さんが子どもの時に着られたと思いますが、小学校、中学校、又は高校の学生服、セーラー服は日本全国の中で約8割を倉敷市児島で作っています。学生服、セーラー服はほとんど3月に納品します。だから1年間の売り上げの内90%を3月に売り上げるわけですので、勿論それまでの工程の中で生地を作ったりとか、作っておいて最後の3カ月間は大変な中で学生服、セーラー服を作られています。それから最近非常に有名なのはジーンズの町ということです。児島にジーンズストリートがあるということを聞いたことがある人は手を挙げて下さい。児島が何故ジーンズストリートで有名かと言いますと、日本で一番最初にジーンズが外国から入って来て、日本のジーンズを作り出したのは、今から約55年前の、児島が初めてです。児島は日本のジーンズの発祥の地です。それは何故かというところ、少し倉敷市全体の歴史にも関わってきます。倉敷市は皆さんがいらっしゃる玉島の地域、それから倉敷や児島もそうですけれど、大きな川の高梁川があります。高梁川はこの作陽学園からちょっと東の方にずっとメイン

道路を走りますとあります。岡山県内には3大川と言って、高梁川、旭川、吉井川の3つの大きな川があります。我々のこの高梁川は倉敷市内の多くの地面を造りました。というのは、昔は私たちの地名もそうですが、児島もそうですし、玉島も、それから連島、水島、みんな『島』が入っています。皆さん入学時、県外からの方は、場所は玉島だということで、もしかして自分は島の方に行くのかなと心配した人もいたかもしれませんが、よく全国の方から倉敷市は島が多いんですねと言われます。けれども、実は元々島だった所を大きな高梁川が上流から土を運んで来て、今我々が住んでいる地面、島だった所が、堆積作用によって陸地と繋がって今の町になってきました。それが大体今から4～500年ぐらい前に大きな地面がこの辺りにはできていたと言われていました。そもそも顧みると一番昔の日本の書物であります古事記というのがあります。710何年かにできた日本の昔の歴史を書いた書物、その中に日本の島を神様が創った中で、児島は日本の中で9番目に創ったという記載があります。本州を創ったり、九州を創ったり、それから四国を創ったりしたんですけど、その中で児島を9番目に創った。そしてそこから段々、川とか地面がその土地の堆積によってできた。ということで私たちの町は、日本の多くの所もそうですが、川の堆積作用によって地面が繋がってきました。ここからがさっきのデニムの話に戻るんですけど、玉島も児島もそうです。玉島にも備中綿というのが昔から非常に有名でした。その堆積作用によって、元々海だった所が地面になります。その地面は海だったから、塩分が多いです。塩分が多いと日本人の主食であるお米は、そう簡単にはできません。塩害というくらいですから、塩分が多い土地では米を作ることは最初から難しい。塩分が強い土地に何が作りやすいかと言うと、一つは綿花、そしてもう一つはイ草です。この二つをこの沿岸の地帯では、昔から栽培をしています。勿論、塩分が多い土地ですから、塩を作ったりということもしていました。児島ではナイカイ塩業という所が今もされていますし、それから例えば瀬戸内市では錦海塩田という大きな塩田もありました。そして多くの所では、綿花を作って、綿を作って、それを取引したりしていました。この綿が例えば何になっているかと言うと、倉敷市にはアイビスクエアがあります。アイビスクエアは何かと言いますと、元は倉敷紡績の工場です。そういう綿花を使って、紡績会社をして倉敷の町が江戸時代や明治時代に盛んになって、昭和の初めの頃もそうですけれども、そういう町になっています。それからイ草、イ草と言うのは畳表を作る材料です。日本の中で倉敷市と言うのは昔から、イ草の栽培では全国でトップでした。今、国内では熊本が非常に大きな産地になっています。今はあまりないですが、そういうものを作って取引をしていたのが、玉島の港町であり、それから倉敷の美観地区の所にある蔵であり、若しくは児島の繊維産業の町でした。それで時代が代わり、学生服の時代になります。綿花を作っていたので元々、繊維産業は盛んでした。児島や玉島にもありましたが、繊維産業の町として発展をし、そしてそれが学生服やセーラー服、それから作業服になり、そして今の児島のジーンズになったというのが、我々の産業の大きな流れです。知っている人もいますけど、ジーンズというのが何故ジーンズなのか、それからジーンズの生地はデニムと言います。デニムというのは実はデ・ニームという二つの単語からできています。「ニーム」というのはフランスの土地の名前です。フランスのマルセイユとかがある南フランスの土地の名前で、フランスの中でも繊維産業がとて盛んな町の名前です。「デ」というのはフランス語で「の」という意味です。「ニームの」ということで、ニームで作られた生地というのは、ニームは非常に沿岸地方で綿花の栽培が盛んで、非常に強い綿とかを作っ

ていまして、繊維産業が盛んな町でした。それをニームで作っている、いわゆる「デニーム」と呼ばれていたんです。それが南フランスのすぐ東側にはイタリアがありますが、イタリアのジェノバという大変有名な港町に綿花の産業が輸出されまして、つまりジェノバという町では船乗りさんがたくさんいますから、船乗りさんが着る非常に丈夫な服、それから船の帆とかを丈夫な綿花で作るようになりました。ニームの「デニーム」という製品がジェノバに行き、そこから船乗りさんが世界に貿易をしに行く間に、イギリスとかアメリカの方に広まります。その時に読み方が、ジェノバから輸出をされたので、英語読みになり、ジェノバというのは「ジーン」という読み方になったらしくて、「ジーン」が2本有りますから、アメリカで「ジーンズ」と呼ばれるようになりました。アメリカでゴールドラッシュというのがありまして、金を採掘して皆がお金持ちになるというのがあったんですが、そのゴールドラッシュでジーンズをはいた人たちが大変多くなって、そしてそれが戦後、日本に渡ってきました。日本に渡ってきた時に、どこに渡ってきたかという、私たちの町、児島に来たわけです。なぜならば繊維産業が大変盛んな町で、そういうのを作る技術が非常に高かった。児島にジーンズの産業がやって来て、今、50何年が経ちました。もう、フランスのマルセイユには、その繊維産業はあまり残っていません。アメリカにはリーバイスとかのブランドもありますけれど、日本のジーンズというのは、その昔からの繊維産業の盛んな技術のお陰で、世界の中で非常に評価が高いということで、デニムは日本一であり、世界でもトップクラスだと言われています。

ちょっと脱線しましたがけれど、岡山県は昔は農業県でした。桃とかお米をたくさん作っていた、それが今から60年前ぐらい、当時の三木行治さんという岡山県の大変有名な知事が、農業だけではいけないということで、工業の方も頑張ろうということで、水島地帯の埋め立てを始めて、そこに今の水島コンビナートができたということです。JFE、JX日興日石、日本で最大の精油工場です。そういうものを立地して、岡山県内の産業を支えているというふうになりましたと歴史の勉強みたいになりましたけれど、こういう色々な特色を持っているのが、私たちの町、倉敷ということです。今日は皆さんが、玉島の自分たちの地域のことをどう思っているのかとか、町をよくするためにはこういうことをやってみてはどうかとか、日頃感じていることを、教えてもらえたらと思っております。

参加者Aさん

くらしき作陽大学子ども教育学部3年の者です。大学になって長崎から来たんですけど、倉敷のことを全く知らずに3年目を迎えることについて、すごくもったいないことをしたなという印象です。今から知っていきたいと思います。

作陽大学で学生を主体としてMix Projectという組織を立ち上げました。学生のみで大学を盛り上げていこうということを目論んで、僕の勝手に立ち上げた団体です。僕は団体の中で人をまとめたり、意見をまとめたりして、目的に向かってやっていくことがすごく好きです。誰かに引いてもらった線路を走っていくのではなく、自分で道を作ってやっていかなければならないということで、色んな不安やうまくいかないことがあって、正直やりきれるのかなというのが、今の感想です。市長さんは倉敷市の代表、リーダーであって、色んな政策・提言を打って、まとめ上げて倉敷市を良くしていこうという、リーダーとしての存在であると思うんです。一つの目的に向かって、色んな意見をまとめて人を動かすためには、何をすべきか、何が大切なことなのかということをお聞きしたいです。

市長

Mix Project 頑張ってください。真相をついた素晴らしい質問だと思います。何事もですけど、市民の方でも色々な意見を持っている方がたくさんいらっしゃいますし、それをどう市政に反映させるかというとなかなか難しい。市の代表として進めていくんですけど、まず色々な人の意見をよく伺うことに気をつけています。色々な意見を、それぞれ自分が思っていることとか、立場で言ってくれるんですけど、全部実現できるわけではない。自分がリーダーとして、何をやって行かなければいけないかと思う中で、市民の人の非常に多い意見とか、自分が納得できるものというのを見つけ出して、それを皆と一緒に話合っって前に進めるようにしています。

もう一つ気をつけているのは、何か問題があった時は、その現場へ行って自分がよく見て、大きな予算を使う事業があった時には、その地域に行き市民の皆さんから話をよく聞いたり、自分でよく見て、自分が納得した上で、プロジェクトを進めたいなと思っているんです。勿論市役所には多くの部下の職員がいて、一生懸命、毎日仕事をしてくれて、説明をしてくれます。それを市の代表として、このプロジェクトには何十億円使いますというのを市議会に説明しないといけなくなります。その時自分が納得して、自分の言葉で多くの人に説明できるようにというのが、非常に大事な事だと思っています。全部が実現できるわけではないんですけど、その時実現できなくても、1年後とか何年か後に実現できることもあるので、以前いただいたご意見というのも貴重なご意見として、自分の頭の中に蓄積して、それができる時になったらやっていくということに気をつけています。人をまとめるというのは非常に難しいことだと思いますが、皆さんの意見を聞いたり、聞いて自分が納得して、意見を共有して前に進めていくのがいいんじゃないかと思っています。

参加者 B さん

くらしき作陽大学子ども教育学部3年の者です。僕は福山出身で、近いのですが、倉敷のことをあまり知らなくて。ここに来た時に初めてジーンズで有名なんだということを知ったんです。でも実際にこの3年間ジーンズで有名なんだぐらいで触れる機会が、イオンに行ってもアリオに行っても無いです。それこそアメリカと言ったら、リーバイスとおっしゃったように倉敷のブランドのGパンとか作ったらいいんじゃないかなと思ったんですけど、そういうのはあるんですか。

市長

私が着ている上着、実はデニムです。色味は繊維の種類があって、これはデニム製品です。履くのはジーンズ、着るのはデニムの生地の上着。自分で特別注文して作ったんです。後ろに倉敷市のマークが入っているんです。良いポイントを言ってくれました。児島のジーンズは、昔は多くが下請けの所が多かった。日本全国的なブランドのボブソンとか、東京にあるようなメーカーとかの。下請けだと当然、自分のブランドでは発表できないです。それに自分の技術だということ全国に分かってもらいにくいので、実はここ5年ぐらい前から児島の地域の繊維業者の皆さんが、自分のブランドで作ろうということで。桃太郎ジーンズ、聞いた方もいらっしゃるんじゃないかと思いますが、自分の所でブランドで作っています。自分のブランドのところもあるし、下請けで次々作っている所もあるんですけど、自分のブランドの名前で作ることによって、世界のバイヤーの人たちは、これは下請け

やなくて、この会社の、桃太郎ジーンズさんが作っているものなんだというのが分かって、当然下請けじゃないから高く売ることができます。だから児島のジーンズ産業というのは、非常に注目を浴びてきているところです。そういうブランドがいっぱいある所が児島のジーンズストリート、もとは児島の味野商店街という所ですけど、全国で商店街が廃れたりして、空き店舗になっている所を、ジーンズのメーカーの人が借りたりしてお店を出している。段々自分のブランドでできるようになってきているんです。ジーンズストリートは児島駅から歩いて5分の所で良い所ですので、是非行ってみてください。ちなみに福山出身と言われていましたけれど、福山も繊維産業が非常に盛んですよね。カイハラ産業という所があって、カイハラさんの所のデニムも非常に有名です。ライバルではありませんけれど、非常に素晴らしい技術を持っています。

参加者Cさん

作陽音楽短期大学2年の者です。本日は、こういった機会を与えてくださり、ありがとうございます。私は愛媛県出身で、倉敷市玉島に来てまだ2年くらい。ここ倉敷市はすごく災害も少なく、天候にも恵まれて良い地域ですが、市民の方も災害に対する対策がとれていないと思っています。津波ハザードマップを見させていただいたんですが、津波や地震による被害はどのようなものか、実際に起きた東日本大震災などの恐ろしさを教え、南海トラフによる倉敷市への影響や対策もきちんと書かれており、家の中で今すぐできる対策など、避難場所や避難路も確認ができ、市民の方々にとても良いと思ったんです。これは全ての家庭にいきわたっているのでしょうか？また、耳の不自由な人や目の不自由な人は地震速報や警報器の音など聞こえない、情報が見れないという問題があると思うんですが、そういった方々にはどんなことを行っているのか、知りたいです。

市長

岡山県民は防災への意識が低いということですね。防災ハザードマップを自分の家で見たと記憶がある人、手を挙げてください。一応いらっしゃったんで、安心しました。ポストに毎月、これ(広報紙)が入っていると思う人、手を挙げてください。7割くらいですね。月に1回、市内の各家庭に今の広報紙というものが配達されます。来てなかったら、言って下さい。ぜひ見てもらいたいです。市のいろいろな情報が載っているんですが、それと同じように、先ほど見せて下さった津浪ハザードマップ、それは去年の夏に配りました。南海トラフ巨大地震が起きた時にはどういうことになるのかということに記載してあります。ちなみにその中にも記載していますが、この作陽学園は倉敷市と、災害時の避難場所の協定を結んでいただいております。この玉島地区、沿岸部は標高が低い所があります。ですので、ここの運動場とかに、多くの地元の人が避難できるように協定を結んでいまして、備えをしているんです。ただ、岡山県にこれまであまり大きな地震がきていないので、皆さんの防災に対する備えが低いということがあると思います。自主防災組織という町内会単位とかで作っている組織の結成率も、全国では80%というところもたくさんあるんですけど、この岡山県倉敷市ではまだ50%くらいで、あんまりそういう防災意識も高まっていません。でも、3年前に起こりました東日本大震災以降、やはり関心が高まってきています。倉敷市の防災危機管理室に出前講座というのを要望してくれたら、職員が町内でも学校でも行きます。防災の時に何を準備しておけばいいのか、こういうことに気を

付けてくださいとかという話をします。

それから、耳や目が不自由な方はどうしているのかということ。防災ラジオというのがあります。倉敷市の緊急「こくっち」、FMラジオがあるんですが、FMくらしきというのがあります。周波数は82.8ですけど、そのFMくらしきから、災害の時は、緊急電波が発せられて、ラジオが急に大きな音が鳴り、耳の聞こえない人にはラジオがピカピカ点滅する装置がついています。何かあったということが分かるようになっていてという仕組みもあれば、倉敷市の消防では、しゃべれない人がどうやって消防と連絡を取るのかというと、消防局とあらかじめ仕組みを決めておいて、FAXで「助けて下さい」と書いて送るとか、決めています。もちろん100%できているとは言えないと思いますが、やっています。まだ意識が低いと思っているので、頑張ろうと思っています。

参加者Cさん

もう一つ質問が。学生が市民の皆さんにできる災害対策などの活動はあるのでしょうか？

市長

皆さんそれぞれ住んでいる町内は違うと思いますが、地域の防災訓練とかがあったら、まず参加をしてもらいたいと思います。結構若い人の参加率が低いと町内の方が言われていて、町内の方も若い方が参加してくれれば、非常にやる気が出るし、町内のどこが危ないか、ここが浸水する地域だとか、一緒に調べたりして、マップを一緒に作ったりとかしてくれたり。例えば、倉敷芸術科学大学の学生さんだったら、町内の人達と一緒に町を歩いて、ここら辺が危ない所だというマップをデジタルで一緒に作ったりということ聞いています。そういうことができるようになったらいいと思いますし、一緒に参加してくれて、若い学生さんも意識を持ってきているんだということだけでも非常に大切なこと。通学経路の中で危ない所とかも自分たちでチェックを是非したりしてもらったらと思っています。

参加者Dさん

中国職業能力開発大学校メカトロニクス技術科の者です。メカトロニクス技術科では、機械を加工して物を作っていて、ドリルのようなものですが。機械を動かすための制御したりする技術を扱っています。

うちの学校は学園祭で、地域の方と交流があるんです。それで関連して、倉敷に住んでいるんですけど、小学校が近くにあるんです。ちょっと前に誘拐事件があったんですが、その事件があって結構防犯的な部分で市民の皆さんと協力し合ったらどうかと思ったんです。特に今までどおりであまり変わってはないように見受けられるんです。自分としては、学生がボランティアとして登下校の時間とかに協力できることがあればいいなと思っています。んですけど、どう思われますか、それと、やはり防犯の部分で、どう考えられているかということをお聞きしたいです。

市長

地域の防犯というのは、いくつかの面から強化する方法があると思うんです。7月に起きて全国的にもニュースになった小学校の子どもさんの誘拐事件、本当におかげさまで、

皆さんから多くの情報をいただいて、無事に5日目で発見されまして、今元気に学校に通っています。その中でやはり非常に大切なことは、一つは地域の皆さんの防犯に対する意識とか、それから少しずつでもいいんですけど、関与というのが犯人にとっては脅威というか、子どもに手出しをしにくいと聞いております。今回の時もそうでしたけれど、地域の方がシルバーの車だとか、ナンバーとかをうる覚えでも言ってくれたりとか、そういうことが犯人に到達する手掛かりでした。例えば、街角のオレンジ色のエプロンを着て、朝、角に立ってくださっている交通安全母の会の皆さんですが、地域の子どもの通学の時に立ってくれたりしています。それから交通安全パトロールのジャンパーを着たおじさんたちも。そういう人たちが立ってくださっていると、子ども達は非常に安心しますし、また犯人も急に誘拐をするわけじゃなくて、ある程度狙いをつけるので、地域の中でも地域活動の盛んな所ほど狙われにくいというのがあると思います。今回の地元の小学校区の方も、地域でもっと活動を活発化させていこうということを言われております。

それからもう一つは、それですべてができるわけではないんですが、周りに人家がなくて見回りをしてもらえない所に防犯カメラをつけたり、ということは今後していきます。ただ、防犯カメラをつければ何でもいいかということではなくて、今回の事件だけではなく、警察が犯人に話を聞いてみると、地域の人たちが色々なことに関与している地域には行きにくい、空き巣とかもそうです。地域の人々の目が光っているところにはそういう事件は起こりにくいと聞いています。今の学区もそうですけど、活動が広がればいいと思っています。また、その学区は川崎医科大学や川崎医療福祉大学とかがあるところで、川大の学生さんも色々な協力をしてくれ、これからは頑張っていこうと言ってくれています。

自分が住んでいる所でボランティアとか見守りとかをやりたいと地域の町内会長とか知っている人の所に行っていたら、ものすごく喜んでくれると思うんです。全然知り合いがいなければ、例えば学校の地域担当の窓口の先生が多分いると思うので、その先生を通じて倉敷市の方とかへ言ってもらったら、ご自分の地域のコミュニティの方を紹介できます。そういう気持ちを持って一緒に活動してくれるということが非常に大切だと思います。よろしくお願いします。

参加者Eさん

先ほど演奏させていただきました、くらしき作陽大学音楽学部4年の者です。私は広島県出身で三原市から毎日電車通って来ているんですが、三原は若者が減ってきている町で、倉敷も段々そういうふうな傾向にあるのではないかと思います。その原因を考えた時に、若者が仕事ができる場が少ないというのが原因の一つではないかと思っています。倉敷もそういうことがあるんじゃないかなと思うんです。そういった時に、会社とか、倉敷市として、何か応援をする仕組みというのはあるのかと気になっています。それと、私たちは今、くらしき作陽大学と言う名前を借りて、色々な企業から依頼を受けて、この4人で演奏をさせていただいているんですけど、私たちのように音楽をやっている人間は、卒業したら音楽を演奏する仕事をするのがとても難しい世の中で、やっぱり一般企業に就職したりすると、音楽をあきらめるといって道を選択しないといけなことがやっぱり多くて。自分の趣味というわけではないんですけど、音楽を続けたい思いがある人のために、市や会社・企業に協力してもらえることがあればと、その辺を教えてくださいたいです。

市長

今のお話ですが、皆さん、まち・ひと・しごと 地方創生というのを、最近、テレビや新聞でちょっと聞いたことがある人、いらっしゃいますか？（挙手）はい、割と少ない感じですね、ありがとうございます。今言っておさったことは、日本全国の中でとても問題になっていて、そしてこれからの日本のために大変大切なことだと言われているんです。と言うのは、皆さんは、倉敷市にとってもありがたいことですが、この倉敷市の学校で今勉強しておさっていて、それから就職を、倉敷市内でされるのか、地元に戻る方もいらっしゃると思いますが。例えば、東京の大学に行った人は、東京で就職する場合も多く、そうすると、自分の地域から東京にばかり人口が吸い上げられていって、全然帰ってこないという現象が全国で起こっているの、若い人が減っています。それをどうしていくのかというのが、今の日本の大きな課題で、この地方の魅力をもっと高めるといことと、それから地方でもっと若者が仕事ができるようにするといことを、国も本気で考えていく時期に、今ちょうどなっておきます。確かに音楽関係で就職をするのが、子供が少なくなってきた音楽教室も少ないといのもあると思うんです。一つには、皆さん、自分が会社を興すといのもパツと思いつかないと思ひますけれども、これから例えば、地方で自分が就職をすることを考える時に、そんなに遠くない将来、自分が会社を興すといのも、是非これからの自分の人生設計を考える上での選択肢に入れていただいたらいいんじゃないかと思ひます。今、景気は少しずつ良くなっているといわれていますが、やっぱりそれを自分で待っているだけではなくて、自分からも会社を興そうとか、若しくは何年か会社で修行してから自分で会社を興して社長になって、引っ張っていってやるぞとか、そういうことも少し選択肢の中に考えてもらったらと思ひます。会社を興したい人にとっては、例えば地域の商工会議所とかが相談に乗ってくれます。倉敷市でも商工会議所の中に、創業支援センターといのものがあって、そこに相談に来る人が非常に増えています。実際、アメリカのシリコンバレーとかでは、大学の学生が、卒業したらすぐ自分で会社を興すといのものが、頑張っている証拠みたいになっている。日本もこれから段々そういう方向にもなっていくんじゃないかと思ひています。直接の答えになつたかどうか分かりませんが、頑張ってみてください。

参加者 F さん

中国職業能力開発大学校 2 年メカトロニクス技術科の者です。出身が山口県です。通常は自転車で移動しているんですけど、新倉敷の周りが自転車がけっこういっぱいなんです。明らかに放置自転車じゃないかといのものもあります。自転車の駐車台数の限りがあるんで、そういう自転車はどうされているんでしょうか。

市長

新倉敷駅の前には学生さんたちも非常に多いので、自転車の置き場についてはなるべく整理員の方とかを置いて、整理してもらえるようにはしているんですけど、明らかに放置自転車と思われるものも結構あるんですかね。一定期間ごとに、ずっと放置されているものについては札を付けて、期間が経過したら、集積場へ持って行って、空けるようにはしているんです。また、バラバラに置いたりすると結構混雑して取りにくかったり、といの

がありますので、置くときに指導してもらったりというようなことをもっとしようと思っています。昔は民間の駐輪場がもっとあったんですけど、最近やめられたりして、駐輪場の数も少なくなってきたと思っています。今後様子を見て、あまりにも混むようであれば、拡張するとかそういう対策も考えないといけないかなと思いますが、よく状況をみてからやるようにしたいと思います。

参加者 G さん

中国職業能力開発大学校電子情報技術科の2年生の者です。何をやっているかと言うと、電気回路を作ったり、電子機器を作り、プログラムを作って、そのプログラミングのデータを電子機器に入れて、動かすということをしています。僕は出てないんですが、ロボコン等に参加している人がいます。

質問ですが、倉敷のマスカットスタジアムは普段、野球の試合とかをやっていて、それ以外の時は一般市民に公開していると思うんです。ぼく個人の意見で、野球はいいんですけど、一般市民に公開するのを少し減らして、野球以外のイベントを増やしたら、野球に興味のない人もマスカットスタジアムに興味を持って、そのようなイベントに参加することによって、倉敷市も賑わうと思うんです。倉敷市長から見て、マスカットスタジアムでイベント事をやることをどう思っているのかをお聞きしたいです。例えば、ライブとかは周りへの音とかがあるので難しいと思って、具体的な案があるわけじゃないんですけど。

市長

中庄のマスカットスタジアムの活用方法についてご意見がありました。ちなみに、マスカットスタジアムに行ったことがある人、手を挙げてください。その中で、野球の試合を見に行ったという人。(挙手)成人式で行ったという人。(挙手)その時私の挨拶を聞いた人。(挙手)マスカットスタジアムですけど、倉敷市が岡山県と一緒に作りました。倉敷市でも最大の野球場ですし、それからプロ野球も開催しています。プロ野球のオープン戦と公式試合を含めて、年に5～6試合ぐらいナイターをやっていて、それ以外にも少年野球とかまた還暦野球とかやっているんですけど、その他のイベントに活用したらどうかということですね。ドームではないので、ちょっとコンサートは難しいかなと思っています。でも例えば、全国のチアリーディングコンテストとか、そういう大きな大会の発表みたいなのを。アメリカとか外国とかではフィールドの中で、そういう発表をしたりコンテストをやったりするということもあると思いますので、野球以外のスポーツや行事でももっと使えるように出来ればと思います。基本的には野球場なので、野球が多い方がいいかなとは思っているんです。でも倉敷市のPRになりますので、なるべく空いているところを活用して、マスカットスタジアムと連携を図りながら全国の方に来てもらえるような行事の誘致に取り組みたいと思います。

ちなみに野球のことで、倉敷市出身の野球監督を知っていますか。そう、星野仙一さんです。星野監督は水島出身です。実は今日、星野監督は今季で楽天の監督を引退されると発表されました。来週の月曜日が楽天の最終戦なんです、宮城県で。その時に倉敷市から星野監督に、スポーツ特別功労賞というのを授与することにしまして、倉敷市で初めての倉敷市スポーツ大使を星野監督にお願いすることになりました。今日、実はそれを発表しましたら、結構、全国のネットのニュースで出ています。「倉敷市特別功労賞 星野監督」、

「星野監督 スポーツ大使」でひいたら、全国、高知新聞、北海道新聞、宮城新聞、福島民放とかたくさんでていますので、また星野監督にも頑張ってもらいたいと思っていますが、そういうこともやっています。

参加者 H さん

くらしき作陽大学子ども教育学部の者です。今、私は小学校の教員を目指して、学生会のことをしたり、塾でバイトしたりしているんですが、特に教員を目指す学生にとって、今のうちにやっておくべきことってというのはいかがお考えでしょうか。

市長

子ども教育学部の学生さんですから、教員を目指す方、保育園の先生を目指す方も多いですよ。勿論、自分の勉学に励むことということですが。小学校で最近良く学校の先生から聞くのは、昔と比べて、多動性というか、例えば身体障害とかという障害とは別に、気持ちの上で集中できないとか、それから発達障害、そういう子どもさんが非常に多くなっていると聞いています。ですので、今のうちに学校で通常の授業の内容に加えて、子どもたちの中で今、増えてきている発達障害、集中できないとか、教室から飛び出したり、教室の中を走り回ったりしてしまう子どももたくさんいるので、そういう子どもたちへの対応について、学んでいくことも非常に重要なことだと思っております。

もう一つは、学校では、お父さん、お母さん、PTAの方とも当然たくさん関与することになります。現在PTAの方も色々な方がいらっしゃって、例えば、学校にすごくガミガミ言ってくるPTAの方もいらっしゃいます。皆も聞いたことがあるかもしれませんが、すごい方はモンスターペアレンツと言われていて、ガミガミ自分のことだけ言われる方もいらっしゃいます。そうじゃない方がほとんどですけれども、そういう方もいらっしゃいます。そういう時にどうすればいいかというのを、それぞれ一人ひとりで状況は違って、一つの答えはないんですけれども、そういう色々な人たちに対応できるようにするために、学校の中で勉強すること以外に、地域の人たちと触れ合ったりする中で、地域の人たちとか、それからお父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんたちというのはどういう行動をとるのか、つまり世の中には色々な人がいるんだなということをあらかじめ少し、自分が体験しておいてもらうことが非常に大切なことではないかと思えます。そういう面で、地域の人たちとのつながりとか、活動に参加するというのは非常に大切なことじゃないかと思えます。例えば、先ほどフルートを吹いてくださいましたけれども、倉敷の美観地区の倉敷館というところで、コンサートをしてくれるんですけれども、そこでは全国から来た観光客の方がとても楽しみにしてくれて、昨年1年間で1500人くらい来てくれて、自分は思ってたのに来たら、こんな良いことをやっていて、倉敷はすごいなと思ったということを書いてくれたり、アンケートに書いてくれたり、そういった面でのコミュニケーションもあります。そういう学校の中だけでなく、色々な人に会っておくと社会にでてから、わりと対応しやすいというか、気が楽になるんじゃないかと思うので、できれば何か地域のボランティアとかに参加してもらったらと思います。

参加者 I さん

くらしき作陽大学子ども教育学部子ども教育学科の者です。私は香川から通っているん

ですけど、親類が香川で保育園を経営しているんで、それで言われることで。保育所に入りたくても入れない待機児童が多いことが問題視されているんですけど、倉敷市でも待機児童の対策、子どもが増えることによって保育士も忙しくなると思うんですけど、保育士への配慮として、行政ではどういうことをしているのかを知りたいです。

市長

倉敷市にも待機児童はいますし、それを解消するように努力もしています。さっき言っただけでしたが、若い人が減っていると、子どもさんがいかに地域にたくさんいてくれるかというのが、地域の将来で大変大切なことなので、倉敷市としても、倉敷市の保育園でたくさん子どもさんが成長してくれるために、保育園を実は作っています。去年2つの保育園を作りまして、今年3つの保育園を作りますので、この2年間で大体450人くらい入れる子どもさんを増やしているんですが、待機児童を減らすということは、子どもさんが保育園に入れると、お母さんが当然、働きに行けるようになります。町の経済も活性化するし地域も活性化するというので、そういう面でも待機児童対策というのを進めているつもりです。それだけではなく、来年平成27年4月から、子ども子育て支援新制度というのができて、保育園と幼稚園の垣根がちょっと低くなります。これまでは親が働いていないと保育園に入れなかった。親が働いていない人は幼稚園に行ってくださいということだったんだけど。親が働いていても幼稚園に行けるようになります、若しくは、幼稚園でも預かり時間がもっと長くなって、午前中だけではなく、午後の部も幼稚園に行けるようになります。そういう面で待機児童の解消は少しずつ進む方向になるかと思っています。

保育士の数は足りなく非常に困っています。倉敷市が、去年から1回出産とかで保育士をやめたお母さんたちが子育てをひと段落してまた帰ってきてくれる時に、いきなり就職というのは不安があるので、いくつかの保育園で、今の保育の状況がどうなっているのかを、一日保育を体験してもらい、自分でも戻れるという確信、気持ちを持って戻ってもらえるような事業を始めました。結構戻る率が高くて、半分以上の方は戻ってくださったりとか、今年も非常に申込みが多かったので、体験の日数を何日か増やしたりとか、さっきも言いましたが、発達障害とかの最近の子どもさんの動向について、勉強できるような日も設けたりしてやっています。わりとうまくいっているかと思えますので、他の倉敷以外の自治体も段々取り組まれるんじゃないかと思っています。

参加者Jさん

作陽音楽短期大学の者です。先ほど、防犯に関するお話もあつたんですが。学生が9時位まで練習して、倉敷方面に帰っていきます。これから日没が早くなるので、外が暗くなるのが早くなります。大学から駅に向かっての街灯の数が少ないように思えて、帰る時に危ないなというのを感じるの。防犯カメラも必要だと思いますが、それを未然に防ぐためにも、街灯を少し増やしていただきたいなと思います。検討してみてください。

市長

街灯の数ですね。この前の通りの防犯灯の管理は岡山県が実はやっているの、県と相談しないといけないんですが、特にどこがっていうのがありますか。それとも、切れてい

るのがあるとかというのが、どこかありますか。

参加者 Jさん

作陽音楽短期大学のほうで未来会議という会を結成して月に1回、先生と生徒代表何人かで話し合いをしているんです。街灯のことがテーマで出ていて、具体的に新倉敷駅の学校側がほとんどです。新倉敷駅北口から見て、左側の方はほとんど街灯がなくて、学生マンションが何軒かあったり、右側の方にも踏み切りがあるんですけど、昔は車が待機して、学生がひどい目にあったりということもあったみたいで。今はそんなに聞かないんですけど、そこからまっすぐ通る細い道も、チカンがあったり、声をかけられるなどあるので、今、未来会議で地図も作成しているところです。そういうところを検討していただきたいと思っています。

市長

さっきの県の道だけではなくて、地域で危ないところというので、地域の防犯灯とかで対応してもらえることもあるかもしれないので、未来会議の地図ができれば、見せてもらえたらと思います。

これだけは言っておきたいということがある人は。いませんようでしたら、最後に私から一言。岡山県内出身の方もいらっしゃると思いますが、最初に手を挙げてくれたように、県外出身の方もたくさんいらっしゃると思います。勉強が忙しくて、倉敷市内の色んなところに行ったりは、まだまだ少ないんじゃないかと思いますが、倉敷市に住んでいらっしゃる間に、倉敷の色んな良い所とか、珍しい所もあります。倉敷で、玉島で勉強して、地元に戻ったりするときに、将来、どこの学校に行ったんですか、どこで勉強したのという時に、倉敷市にいましたといったら、きっとみんな良い印象を持ってくれる方も多いと思います。倉敷のどこが良かったかと聞かれたときに、どこと言えるように、市内の色々な所に行ってもらいたいと思います。ぶどうとか、桃がおいしいとか、水島コンビナートがすごいとか、児島のジーンズストリートがあるよとか、瀬戸内海国立公園、今年80周年で鷺羽山とかすごい人が来ています。本当に瀬戸大橋の所、鷺羽山のレストハウスに是非、行ってください。世界観が変わるくらい本当にすごいです。

瀬戸大橋は倉敷市と坂出市の間を結んで、車が通る下に電車が通っています。瀬戸大橋線、車と鉄道が両方通れる、鉄道との併用橋と言いますが、今のところ世界最大か、中国で新しいのができたので、そのくらいです。ゴールデンゲートブリッジというサンフランシスコの橋と、スウェーデンとデンマークの間を結んでいるオーレスン橋という姉妹橋があったりして、世界的にも非常に有名な橋です。

瀬戸内海国立公園は、昭和5年に日本国内で一番最初に国立公園に指定をされたところです。最初に指定をされたところは、雲仙霧島と、鷺羽山と王子ヶ岳を含む非常に狭い地域が瀬戸内海国立公園でした。世界からはたくさんいらっしゃいますので、そこは見ていただきたいと思いますし、倉敷市内の歴史を勉強して帰ってもらいたいと思います。皆さんが将来どこで働かれるかわかりませんが、倉敷がすごく良かったよと言ってもらいたいですし、機会があれば、倉敷市に就職してもらえると、ありがたいと思っています。とにかく、皆さんの将来に心からエールを送りまして、皆さんと私との意見交換とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。